

## 芦屋市創生総合戦略の事業実施内容について

基本目標	主な取組	評価対象事業 (地方創生関連交付金を活用した取組や本市での特徴的な事業, プロジェクトチームによる企画立案などを選定)
1 安全・安心で良好な 住宅地としての 魅力を高め、継承する	(1) 良質な住まい・住環境の 形成	1 景観施策の推進 2 住宅都市の活性化 3 シティプロモーションの推進
	(2) 地域における医療・福祉 の充実	4 全世代交流の居場所づくり
	(3) 安全・安心なまちづくり の推進	5 防災・防犯の取組
2 若い世代の子育ての 希望をかなえる	(1) 妊娠・出産・子育ての 支援	6 子育ての支援 7 女性活躍の推進
	(2) 教育環境の充実	8 教育環境の充実

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	景観施策の推進			事業 No	1																				
目的	美しい景観により良質な住まい・住環境の形成を目指す。																								
実施内容	<p><b>公共サインの設置</b></p> <p>まちの回遊性向上及び優良な都市景観づくりに向け、「芦屋市公共サイン計画」に基づき、JR芦屋駅と阪神芦屋駅間を結ぶエリアをモデル地区と定めて、深い緑をメインカラーとする公共サインを設置した。          公共サインの設置費：6,156千円          （平成29年度～令和元年度の3年間で69基設置予定。          設置実績 平成29年度：4基、平成30年度：3基、合計7基設置済み）</p> <p>【課題】まちの回遊性向上と景観に配慮したサイン配置を両立する必要がある。          【方向性】モデル地区に公共サインを設置し、道路上のサインの統一化を図る。</p> <p><b>屋外広告物条例の推進</b></p> <p>芦屋市屋外広告物条例の基準に適合しない屋外広告物を掲出している広告主に対して、文書や個別訪問等により条例内容の周知を行い、平成29年7月現在で818件であった市条例不適合の物件が平成30年10月現在で716件に減少した。          （補助制度申請件数 平成28年度：7件、平成29年度：39件、平成30年度：93件）</p> <table border="1" data-bbox="1294 874 2101 1018"> <thead> <tr> <th></th> <th colspan="2">令和元年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> <th colspan="2">令和3年6月30日までに補助事業を完了させるもの</th> </tr> <tr> <th></th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> <th>補助率</th> <th>限度額</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>改修費用</td> <td>2分の1</td> <td>200万円</td> <td>3分の1</td> <td>50万円</td> </tr> <tr> <td>撤去費用</td> <td>3分の2</td> <td>200万円</td> <td>2分の1</td> <td>50万円</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】屋外広告物所有者等の条例への理解、協力が必要である。          【方向性】基準に適合しない屋外広告物の早期改修、撤去を促進するため、補助制度の周知を行うとともに、ガイドラインなどを活用しながらより丁寧な説明を行い、理解を得よう努める。</p>						令和元年6月30日までに補助事業を完了させるもの		令和3年6月30日までに補助事業を完了させるもの			補助率	限度額	補助率	限度額	改修費用	2分の1	200万円	3分の1	50万円	撤去費用	3分の2	200万円	2分の1	50万円
	令和元年6月30日までに補助事業を完了させるもの		令和3年6月30日までに補助事業を完了させるもの																						
	補助率	限度額	補助率	限度額																					
改修費用	2分の1	200万円	3分の1	50万円																					
撤去費用	3分の2	200万円	2分の1	50万円																					



実施内容

**無電柱化事業の推進**

都市防災機能の強化，通行空間の安全性・快適性の向上，良好な都市景観の形成を目的とし，芦屋市無電柱化推進条例を制定し，整備を優先する路線を示した芦屋市無電柱化推進計画を策定した。

また，さくら参道における電線共同溝整備工事を引き続き実施した。（無電柱化率 14.0%）  
無電柱化の工事費：365,985 千円

【課題】無電柱化事業における関係機関及び沿道住民との丁寧な協議が必要であることや事業費が高額であること。

【方向性】無電柱化事業の実施やコスト削減に向けて，課題の整理，共有化を図り，実施手法を定める。



〔無電柱化前〕

〔無電柱化後(イメージ)〕

**景観重要建造物の指定**

魅力ある都市景観の形成のため，景観法の規定に基づき，平成 30 年 10 月 10 日に芦屋市初となる景観重要建造物として，芦屋仏教会館及びカトリック芦屋教会を指定した。

【課題】景観重要建造物の指定により，所有者の適正な管理義務等が生じるため，特に個人住宅等の指定には，所有者の理解，協力が必要となる。

【方向性】景観上重要な建造物を保全するとともに，景観意識の高揚を図る。

芦屋仏教会館



近代建築に東洋風・印度風の細部意匠を取り入れたデザインで、ベージュの外壁と緑豊かな外構は芦屋川の景観とよく調和している。阪神・淡路大震災後には、建築物と一体となった前庭を保存するため、曳家工法による移築が行われた経緯もある。竣工から 90 年を経過しており、歴史的にも価値のある建造物である。

※ 国登録有形文化財

カトリック芦屋教会



鐘楼が収められた高い尖塔、正面のステンドグラス及び入口に続く大階段が印象的な阪神間モダニズムを代表するゴシック風建築であり、落ち着いた佇まいは芦屋川沿岸の景観とよく調和している。芦屋川のランドマークとして古くから市民に親しまれている建造物である。

## 基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

### (1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	住宅都市の活性化		事業 No	2
目的	住宅都市としての魅力を一層高める			
実施内容	<p><b>宮塚公園の活用</b></p> <p>平成 30 年 4 月に宮塚公園のリニューアルオープンイベントを開催（約 500 名参加）。宮塚公園のリニューアルコンセプトに基づく公園内での飲食や物販といったブース出店など、今までにないサービス提供による公園利用者の満足度向上に向け、周辺自治会や、その他任意団体、店舗等、出店やイベントを行う団体、また利用者や有識者に意見を聞き、ニーズの把握とともに今後の方向性を協議した。</p> <p>並行して、一部団体には実際にイベントを開催していただきながら、公園管理者及び地域住民の立場から必要な開催条件の模索も行った。</p> <p>【方向性】社会実験として事業を行いながら、月 1 回程度のイベント開催を目指し、管理者・出店者ともに継続性のある事業を展開する。</p> <p><b>市民活動センターの改修</b></p> <p>男女共同参画センターウィザス芦屋の移転に伴い、あしや市民活動センターを拡張するため、改修工事を実施。改修に当たっては、今後の利用者層を想定した方々を対象に、「芦屋まちデザインラボ」としてワークショップを開催し、そこで出た今後の活動に関する意見等を踏まえ、改修設計に反映した。</p> <p>上記をもとに交流を促進する場を実現し、市民活動の活性化を図るため、オープンスペースにキッチンを設置したほか、印刷機器類の充実を図った。</p> <p>公光分庁舎北館 1 階の改修に向けたワークショップ企画・運営及び設計・施工業務委託：15,000 千円</p> <p>【課題】自立的な市民活動の活性化，行政の役割の見直し</p> <p>【方向性】社会環境の変化に伴い、より一層自主的かつ自立的に社会課題の解決に向けて活動する市民や団体が重要となる中、市民参画・協働に必要な人材の発掘・育成に向けた活動に取り組む。</p>			



基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(1) 良質な住まい・住環境の形成

事業	シティプロモーションの推進			事業 No	3																			
目的	本市の魅力を各施策のターゲット層に効果的に発信することで流入人口の増加を目指す。																							
実施内容	<p>「モダンイズム」&amp;「ネイチャー」による2市1島プロモーション事業 地方創生推進交付金対象事業（交付金 12,023 千円）</p>																							
	<p>「島&amp;都市デュアル」事業</p> <p>プロモーション事業負担金：19,886 千円</p> <p>神戸市、洲本市、淡路市と連携し、「都市の文化と島の豊かさが両立できるライフスタイル」を前年度に引き続き各市の市民で構成された暮らしナビゲーター（35 人）が中心となり、旅の企画（22 本の企画、延べ 207 人参加）やレポート記事の発信（111 本の記事）をWEBサイトやSNSを通じて行った。</p> <p>また、首都圏における認知拡大を重視しつつ、各種イベント施策等を通して4市内外の交流人口の増加を目的に事業を実施した。</p> <p>(各種イベント施策)</p>																							
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>時期</th> <th>イベント</th> <th>内容</th> <th>参加者数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>6月25日(月)～7月1日(日)</td> <td>新宿ポスタージャック</td> <td>新宿駅イベントスペース内でのプロモーション</td> <td>約5,000人</td> </tr> <tr> <td>7月6日(土)</td> <td>デュアルライフフェス</td> <td>渋谷キャストガーデン内でのイベント</td> <td>約1,000人</td> </tr> <tr> <td>9月17日(月)～11月3日(土) (東京3回, 大阪3回)</td> <td>デュアルライフスクール</td> <td>「教育」「スタートアップ」「こだわりモノづくり」をテーマとして4市の市民を講師としたスクールイベント</td> <td>合計208人</td> </tr> <tr> <td>12月1日(土), 2日(日)</td> <td>スペシャル体験モニターツアー</td> <td>3コースに分かれた1泊2日のツアーイベント</td> <td>合計24人</td> </tr> </tbody> </table>				時期	イベント	内容	参加者数	6月25日(月)～7月1日(日)	新宿ポスタージャック	新宿駅イベントスペース内でのプロモーション	約5,000人	7月6日(土)	デュアルライフフェス	渋谷キャストガーデン内でのイベント	約1,000人	9月17日(月)～11月3日(土) (東京3回, 大阪3回)	デュアルライフスクール	「教育」「スタートアップ」「こだわりモノづくり」をテーマとして4市の市民を講師としたスクールイベント	合計208人	12月1日(土), 2日(日)	スペシャル体験モニターツアー	3コースに分かれた1泊2日のツアーイベント	合計24人
時期	イベント	内容	参加者数																					
6月25日(月)～7月1日(日)	新宿ポスタージャック	新宿駅イベントスペース内でのプロモーション	約5,000人																					
7月6日(土)	デュアルライフフェス	渋谷キャストガーデン内でのイベント	約1,000人																					
9月17日(月)～11月3日(土) (東京3回, 大阪3回)	デュアルライフスクール	「教育」「スタートアップ」「こだわりモノづくり」をテーマとして4市の市民を講師としたスクールイベント	合計208人																					
12月1日(土), 2日(日)	スペシャル体験モニターツアー	3コースに分かれた1泊2日のツアーイベント	合計24人																					
<p>3年間の効果検証として実施した移住意向者に対するウェブアンケートにおいて、プロモーション認知率としては、29.6%と、移住意向者のおよそ3人に1人が知るプロモーションとなった。</p> <p>事業は、30年度までとなるが、令和元年度以降はナビゲーター（各市のリーダーを含む6名）が「島&amp;都市デュアル」のブランドを継承していくこととなった。</p>																								

### 首都圏における移住促進事業

業務委託費：800 千円

二子玉川蔦屋家電にて芦屋市商工会や市内の2事業者とともに、事業者の商品販売等を通じて集まった顧客に対して、PR動画や芦屋本、給食レシピ本、インスタグラム投稿等による写真の展示を通じて芦屋市の魅力・住みやすさの認知度向上を図るため魅力発信を行った。20代～40代の子育て世代の来場者が多く、移住・定住のターゲット層へ本市のPRができた。

また、事業者の商品も多くのかたに購入いただき、“メイドイン芦屋”商品の質の高さをPRすることができた。

首都圏にお住まいのかたに対して芦屋市への高級感だけではない好意的なイメージが醸成できた。



### 芦屋市シティプロモーション事業

プロモーション事業委託費：9,018 千円

市民のシビックプライドの醸成及び本市の住みやすさの認知度向上を目的に以下の事業を実施した。

◆書籍「芦屋～あしやを歩く本～」の出版

新聞・テレビ等にも取り上げられ、本市の認知度向上及び魅力発信に大きく寄与することができた。

◆「あしやを歩く スタンプラリー」の実施

書籍の出版と関連して、書籍に掲載されている店舗を中心に市内の回遊性を高めるため、スタンプラリーを実施した。スタンプラリー協力店舗でスタンプを3つ集めて応募いただいたかたに抽選で賞品を発送した。



実施日	スタンプラリー参加店舗	応募実績
平成30年7月1日～平成30年8月31日	79店舗	123件
平成30年9月1日～平成30年10月31日	82店舗	241件
平成30年11月1日～平成30年12月31日	82店舗	424件

◆芦屋市シティプロモーション応援者募集：登録者にイベント情報等を16回発信した。登録者数は、407名。

◆インスタグラム：「ASHIYA PHOTO キャンペーン」と題してインスタグラムで写真を募集し、選考後、広報あしや12月15日号の1面に当選写真を掲載した。

◆PR動画「Sound of ASHIYA」：平成31年3月末時点で再生回数14,500回を超え、イベントやセミナー、職員採用説明会などで放映するなどし、視覚的に市の魅力発信として活用した。

◆親子で楽しむ芦屋クラシックコンサート：芦屋市立美術館にてクラシックコンサート及び本の読み聞かせ会を実施。定員150名に対して563名の応募。

実施内容

**阪神間連携ブランド発信事業**

事業費：880 千円

神戸市、西宮市、阪神電気鉄道と連携し「阪神間モダニズム」によって醸成されたこの地域特有の文化を、地域の魅力として発信することを目的に、Instagramキャンペーン「感じる阪神KAN」及び各市での関連イベントを実施。

- ◆Instagramの投稿数 1,475 件 フォロワー数 207 人。
- ◆芦屋市での関連イベントとして、「芦屋仏教会館でお茶会&音楽会」を開催。イベント参加 29 名。
- ◆神戸市、西宮市と 3 市合同イベントとして、「冬の音楽祭」を神戸市東灘区で開催。イベント参加約 1,200 名。  
本市から甲南高校プラスアンサンブル部と飲食店 1 社、洋菓子店 1 社が参加。  
また、「阪神間モダニズム」に関連したスタンプラリーを当日実施し、270 名が参加。



**【シティプロモーションの方向性】**

- ◆首都圏においては、市内事業者と連携しイベントを実施することで、本市の利便性・住みやすさの認知度向上を図る。
- ◆市内でのイベントや「あしやを歩く本 芦屋」等のコンテンツを活用し、市民のシビックプライドの醸成を行う。
- ◆SNS 等を通じて情報提供を行うことで市外から本市に訪れる機会の増加を目指す。

**【シティプロモーションの課題】**

- ◆イベント等、市内で実施されている事業の総合的な情報の発信。
- ◆シティプロモーション事業における市民への巻き込み手法。

基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(2) 地域における医療・福祉の充実

事業	全世代交流の居場所づくり		事業 No	4												
目的	全世代が交流し、地域の課題を地域で解決する仕組みを推進する。															
実施内容	<p><b>全世代の居場所づくり</b></p> <p>全世代が住みよいまちづくりに向け、平成 30 年度に「健康増進・全世代交流に向けたプロジェクト・チーム」（17 課 22 名で構成）を設置し、民間企業等の多様な主体との協議の場である「こえる場！（39 団体）」の活動を継続。企業・団体等より提案のあったテーマごとに課題解決に向けた活動に取り組み、活動の中で生まれたアイデアを実現する取組のひとつとして、各テーマに沿ったイベントを開催した。</p>															
	<table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th style="width: 30%;">グループ</th> <th>活動テーマ</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>食</td> <td>「食」を通じて高齢者と多世代の交流を図る</td> </tr> <tr> <td>子育て支援</td> <td>親支援で子育てが楽しくなるような取組</td> </tr> <tr> <td>多世代共助</td> <td>自治会や大学と連携した地域づくり</td> </tr> <tr> <td>人生を豊かにする学び</td> <td>学びを通じて芦屋に住んで良かったと思える取組</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>情報発信や連携の方法について</td> </tr> </tbody> </table>				グループ	活動テーマ	食	「食」を通じて高齢者と多世代の交流を図る	子育て支援	親支援で子育てが楽しくなるような取組	多世代共助	自治会や大学と連携した地域づくり	人生を豊かにする学び	学びを通じて芦屋に住んで良かったと思える取組	その他	情報発信や連携の方法について
	グループ	活動テーマ														
	食	「食」を通じて高齢者と多世代の交流を図る														
子育て支援	親支援で子育てが楽しくなるような取組															
多世代共助	自治会や大学と連携した地域づくり															
人生を豊かにする学び	学びを通じて芦屋に住んで良かったと思える取組															
その他	情報発信や連携の方法について															
<p>【課題】 市民との協働の推進、「こえる場！」が継続できる仕組みを検討する必要がある。</p> <p>【方向性】 「こえる場！」を、課題解決につながるよう仕組み化し、企画を行う。</p>																
<p><b>ひとり一役活動の実施</b></p> <p>平成 29 年度より介護保険施設や高齢者の居宅等において、ボランティア活動を行う方を「ひとり一役ワーカー」として登録し、活動によってポイントを付与する制度であるひとり一役活動を実施している。</p> <p>業務委託費：7,218 千円</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ひとり一役ワーカー</td> <td>123 名</td> <td>139 名</td> </tr> <tr> <td>受入施設</td> <td>24 施設</td> <td>26 施設</td> </tr> </tbody> </table> <p>【課題】 65 歳未満の登録が少ないため、周知・啓発が必要である。</p> <p>施設等での活動が多く、個人宅での活動についてもニーズを把握していく必要がある。</p> <p>【方向性】 制度の周知等により、65 歳未満の活動者、担い手を増やしていく。また、実施したアンケートに基づき、関係機関への周知・啓発を図り、個人宅での活動ニーズの把握に努める。</p>				実績	平成 29 年度	平成 30 年度	ひとり一役ワーカー	123 名	139 名	受入施設	24 施設	26 施設				
実績	平成 29 年度	平成 30 年度														
ひとり一役ワーカー	123 名	139 名														
受入施設	24 施設	26 施設														





基本目標 1 安全・安心で良好な住宅地としての魅力を高め、継承する事業

(3) 安全・安心なまちづくりの推進

事業	防災・防犯の取組		事業 No	5													
目的	防災力・防犯力を高め、安全・安心なまちづくりを推進する。																
実施内容	<p><b>防犯カメラの設置</b></p> <p>犯罪の抑止を目的とし、通学路を中心に他の施策（街灯を明るくする・樹木を剪定するなど）を講じてもお不安感がぬぐえず、事案が複数回発生し得る様な箇所を芦屋警察や地域との協議により選定し、優先的に防犯カメラの設置をする。平成 30 年度実施した小学校区ごとの意見交換会の意見を反映させ、防犯カメラを設置した。防犯カメラ設置費：12,545 千円</p> <p>【課題】防犯カメラの有効性について、確認し、今後の配置について検討する。</p> <p>【方向性】防犯については、引き続き芦屋警察やまちづくり防犯グループ等関係機関と連携し犯罪抑止に努める。</p> <p>防犯カメラについては、通学路合点検などの機会を捉え、設置した防犯カメラの有効性についての意見を聴き、今後の設置に反映させる。</p> <p>また、補助金制度の活用により地域での防犯カメラ設置を推進する。</p>		<table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>新規設置数</td> <td>80</td> <td>20</td> <td>20</td> </tr> <tr> <td>設置総数</td> <td>80</td> <td>100</td> <td>120</td> </tr> </tbody> </table>		平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	新規設置数	80	20	20	設置総数	80	100	120		(台)
				平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度											
新規設置数	80	20	20														
設置総数	80	100	120														
<b>土砂災害特別警戒区域等への対策</b>		<p>兵庫県が実施する急傾斜地崩壊対策事業の推進に向けて説明会等を実施し、自治会からの依頼書及び地権者からの同意書を取りまとめて県に提出した。その結果、朝日ヶ丘町及び奥池町において、令和元年度からの兵庫県による対策工事に伴う現地調査等の実施につながった。</p> <p>また、建物の移転及び改修の補助金に関する制度（平成 29 年度開始）の周知を図った。</p> <p>土砂災害特別警戒区域に指定された市有地及び打出芦屋財産区共有地については、対策工事設計のための地質調査を実施した。</p> <p>【課題】県の急傾斜地崩壊対策事業の推進に向けた調整が必要である。</p> <p>【方向性】土砂災害特別警戒区域に指定された市有地及び打出芦屋財産区共有地に対して、対策工事を実施する。</p> <p>その他の区域については、急傾斜地崩壊対策事業の実施に向け、県に要望するとともに、地元自治会等への説明を行う。</p> <p>また、防災情報マップ等による指定区域の周知及び災害発生時の早期避難の啓発を行う。</p>															

## 基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

### (1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	子育ての支援	事業 No	6																										
目的	子育てしやすいまちづくりに向け、子育て世代の希望をかなえる施策を推進する。																												
実施内容	<p><b>キッズスクエア事業の充実</b></p> <p>市内全 8 小学校において、多様な主体と連携し、年間を通して事業実施に至った。                      (平成 30 年度登録児童数：2,288 名、児童登録率：50.6%)                      事業費：33,661 千円</p> <p>【課題】小学校でのキッズスクエア実施のための場所を安定確保する必要がある。                      また、私立小学校に通う児童への周知が必要である。</p> <p>【方向性】企業・NPO・高校・大学等との連携により、一層魅力的なプログラムを実施し、参加を促進する。                      トータルコーディネーター 1 名を配置し、各小学校やマネージャーとの連携を図る。                      今後も地域との連携を深め持続可能性をさらに高めていく。</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">連携先</td> <td>総数</td> <td>56</td> <td>56</td> <td>61</td> </tr> <tr> <td>事業者</td> <td>5</td> <td>9</td> <td>19</td> </tr> <tr> <td>教育機関</td> <td>4</td> <td>4</td> <td>4</td> </tr> <tr> <td>その他(個人等)</td> <td>47</td> <td>43</td> <td>38</td> </tr> <tr> <td>プログラム数</td> <td>522</td> <td>780</td> <td>866</td> </tr> </tbody> </table>	実績	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	連携先	総数	56	56	61	事業者	5	9	19	教育機関	4	4	4	その他(個人等)	47	43	38	プログラム数	522	780	866		
	実績	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度																									
	連携先	総数	56	56	61																								
事業者		5	9	19																									
教育機関		4	4	4																									
その他(個人等)		47	43	38																									
プログラム数	522	780	866																										
<p><b>放課後児童健全育成(学童保育)事業における待機児童解消に向けた取組</b></p> <p>全 8 小学校区において放課後児童健全育成事業を実施しているが、待機児童が生じているため、朝日ヶ丘幼稚園において、民間事業者の運営により山手圏域(3 小学校区)の待機児童を対象に事業を実施した。夏休み期間中は、全市域の待機児童を受け入れた。(開所日数 240 日、出席児童数延 1,313 名)                      委託費：16,640 千円</p> <p>【課題】保護者の希望は小学校区内の運営である。</p> <p>【方向性】放課後児童健全育成事業として、民間活力の導入を図る。</p>																													
<p><b>「市立幼稚園・保育所のあり方」の推進</b></p> <p>「市立幼稚園・保育所のあり方」に基づき次の取組を進めた。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>◆分庁舎内小規模保育事業所の開園(平成 31 年 1 月開園)</li> <li>◆旧ハートフル福祉公社敷地での認可保育所及び朝日ヶ丘幼稚園敷地における認定こども園の設置運営事業者を公募・決定</li> <li>◆旧精道幼稚園敷地における市立精道こども園の開園準備(平成 31 年 4 月開園)</li> <li>◆旧精道保育所敷地における市立精道こども園及び(仮称)市立西蔵認定こども園の設計(令和 3 年 4 月開園予定)</li> </ul>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>実績</th> <th>平成 28 年度</th> <th>平成 29 年度</th> <th>平成 30 年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>入所定員</td> <td>1,211</td> <td>1,271</td> <td>1,369</td> </tr> <tr> <td>待機児童数</td> <td>109</td> <td>139</td> <td>163</td> </tr> </tbody> </table>	実績	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度	入所定員	1,211	1,271	1,369	待機児童数	109	139	163																
実績	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度																										
入所定員	1,211	1,271	1,369																										
待機児童数	109	139	163																										

## 基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

### (1) 妊娠・出産・子育ての支援

事業	女性活躍の推進	事業 No	7																					
目的	女性が様々な場面で、その能力や個性を発揮し、活躍できる社会の実現に向け、施策を推進する。																							
実施内容	<p><b>「女性が輝くまち 芦屋」プロジェクトの実施 地方創生推進交付金対象事業（交付金 17,096 千円）</b></p> <p>子育て世代も含めた女性の活躍を促すため、「女性が輝くまち 芦屋」の実現を目指した「ASHIYA RESUME 事業」及び女性の起業支援のための「旧宮塚町住宅活用事業」を開始し、以下の取組を行った。</p> <div style="display: flex; justify-content: space-between; align-items: center;"> <div style="width: 60%;"> <p>◆ 「ASHIYA RESUME 事業」</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プロモーション イベント告知や女性活躍に関する情報提供のため、ホームページを随時更新した。 また、プロジェクト周知のため、リーフレットを作成し、市内公共施設に配架した。</li> <li>・プロジェクトへの参加希望者の登録促進 プロジェクトへの参加希望者として、就業・起業希望者 143 名の登録を得た。</li> </ul> <p>◆ 「旧宮塚町住宅活用事業」 市営住宅であった旧宮塚町住宅の 1 階部分を改修し、女性の活躍支援や地域活性化の拠点となるよう、入居者を募集し、4 戸の入居者を決定した。 委託費等：37,631 千円</p> <p>【課題】「ASHIYA RESUME 事業」プロジェクトの認知度及び興味関心を高め、登録・協力を増やすこと並びに起業・再就労などにつながる実践的な支援を行うこと。 また、地方創生推進交付金事業として令和元年度で終了するため、交付金終了後の自走に向けた検討が必要であること。 「旧宮塚町住宅活用事業」北側敷地を含めた全体的な活用方法の検討が必要であること。</p> <p>【方向性】「ASHIYA RESUME 事業」アンケート調査等から起業への意識が高いことが芦屋市の特徴であることから、引き続き事業を実施するとともに、関係各課・事業者等が連携して女性の起業・就労支援等に関する事業を行う。 「旧宮塚町住宅活用事業」2 階部分の改修・入居者募集を行うとともに、北側敷地を含めた旧宮塚町住宅の運営管理業務を提案方式で実施し、業者の決定後、施設等の管理だけではなく、オープニングイベントなどを開催し、女性の活躍支援や地域活性化につながる取組を行う。</p> </div> <div style="width: 35%; text-align: center;">  </div> </div> <table border="1" style="margin-top: 20px; width: 100%;"> <thead> <tr> <th>テーマ</th> <th>イベント名</th> <th>参加人数</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>交流の場づくり</td> <td>ASHIYA RESUME salon</td> <td>26 名</td> </tr> <tr> <td>実践的な個別支援</td> <td>ASHIYA RESUME school</td> <td>延べ 68 名</td> </tr> <tr> <td rowspan="2">活躍の場の提供</td> <td>ASHIYA RESUME seminar</td> <td>延べ 20 名</td> </tr> <tr> <td>ASHIYA RESUME market</td> <td>約 350 名</td> </tr> <tr> <td rowspan="3">協力者（協力店舗・事業者）の募集</td> <td>ASHIYA RESUME meeting</td> <td>72 名</td> </tr> <tr> <td>ASHIYA RESUME matching</td> <td>10 名</td> </tr> <tr> <td>ASHIYA RESUME workers spot</td> <td>9 名</td> </tr> </tbody> </table>			テーマ	イベント名	参加人数	交流の場づくり	ASHIYA RESUME salon	26 名	実践的な個別支援	ASHIYA RESUME school	延べ 68 名	活躍の場の提供	ASHIYA RESUME seminar	延べ 20 名	ASHIYA RESUME market	約 350 名	協力者（協力店舗・事業者）の募集	ASHIYA RESUME meeting	72 名	ASHIYA RESUME matching	10 名	ASHIYA RESUME workers spot	9 名
テーマ	イベント名	参加人数																						
交流の場づくり	ASHIYA RESUME salon	26 名																						
実践的な個別支援	ASHIYA RESUME school	延べ 68 名																						
活躍の場の提供	ASHIYA RESUME seminar	延べ 20 名																						
	ASHIYA RESUME market	約 350 名																						
協力者（協力店舗・事業者）の募集	ASHIYA RESUME meeting	72 名																						
	ASHIYA RESUME matching	10 名																						
	ASHIYA RESUME workers spot	9 名																						

## 基本目標 2 若い世代の子育ての希望をかなえる

### (2) 教育環境の充実

事業	教育環境の充実		事業 No	8
目的	特色ある教育を行い、教育環境の一層の充実を図る。			
実施内容	<p><b>食育の取組</b></p> <p>給食で使う材料の仕込みのお手伝い等、年間を通じて多くの食育活動を行う他、小学校6年生を対象とした市内有名シェフによる「味覚の授業」や給食室との「コラボ給食」を実施した。</p> <p>学校給食の更なる魅力発信のため、平成29年度にcookpadに開設した「芦屋の学校給食」のページで栄養価にも考慮した学校給食のレシピを紹介した。(平成30年度 14回)</p> <p>保護者向けに市内の有名シェフと学校栄養士による「学校給食レシピ集を活用した料理セミナー」を実施した。(2回、参加者のべ56名)</p> <p>【課題】安全安心な学校給食を基盤に、地産地消をいかした食育にどのように取り組んでいくか。</p> <p>【方向性】学校給食展をはじめ、食育事業を通して食育推進を図る。また、精道中学校での給食を令和2年度中に開始(全中学校での自校調理方式による実施完了)。</p> <p><b>読書のまちを推進する取組</b></p> <p>「教育施策推進に向けたプロジェクト・チーム」を設置し、学校図書館と市立図書館の連携を図り、図書館職員が講師となって「絵本から読み物への移行期におけるお勧めの本の紹介」と題した研修会を開催した。</p> <p>図書館職員が小学校に出向き、ブックトークを行った。</p> <p>平成29年度に引き続き、図書館、美術博物館、谷崎潤一郎記念館の連携により、屋外で読書を楽しむイベント「niwa-doku」を実施した。(1回、参加者657人)</p> <p>【方向性】引き続き、関係機関との連携を深め、 公立図書館・学校図書館等の読書環境の整備を進める。</p> <p><b>英語教育の推進</b></p> <p>平成30年度より、小学校の全学年に対して英語教育を実施した。</p> <p>授業には、英語が堪能な地域人材や外国人指導助手(ALT)を配置し、教員と協働して指導を行った。</p> <p>また、教員の指導力向上のために、授業におけるチームティーチングの研修と、クラスルームイングリッシュなど英会話の研修を行った。</p> <p>【課題】児童生徒の英語でのアウトプット活動(自身の考えなどの表現)に対する指導、支援。</p> <p>【方向性】就学前から中学校まで、系統的に英語教育を実施する。</p>			

